

一般財団法人 千里文化財団  
2018年度事業計画及び収支予算書  
(2018年4月1日～2019年3月31日)

2018年3月

一般財団法人 千里文化財団

## 2018年度事業計画書（2018年4月1日～ 2019年3月31日）

当財団の目的は、「民族学・文化人類学等の振興を図るため、国立民族学博物館等関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、社会の発展に寄与する。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、また文化振興や次世代育成等含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

### 1.民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備への協力  
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データの作成、及び活用に向けた支援
- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行  
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（164号～167号）の編集、発行及び集広  
別紙1：2018年度『季刊民族学』企画内容(案)
- 3) 国立民族学博物館、及び民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営  
別紙2：2018年度講演会等企画内容(案)

### 2.国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布、及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業
  - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、  
『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等国立民族学博物館の刊行物の頒布
  - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
  - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売  
展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、  
クリアファイル、スタンプ、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック等
  - ④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布

### 3) 国立民族学博物館の普及事業

#### ① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強

国立民族学博物館、及び民族学・文化人類学の普及を目的とし、国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる「国立民族学博物館友の会」を設け、博物館の活動を支援する。

#### 2018年度の取り組み

「博物館活動を支援する会員」「博物館を活用する会員」の位置づけを明確に打ち出し、サービスを拡充するとともに、新会員種別「ミュージアム会員」を設けることにより、幅広く市民に支援及び活用を呼びかける。

「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行

#### ② 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営

#### ③ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務（受託事業）

### 4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

#### ① 展示案内学習支援等業務を受託し実施（受託事業）

展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務

#### ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施（受託事業）

標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等業務

#### ③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施（受託事業）

国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務

#### ④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）

### 5) 国立民族学博物館活動に協力する事業

国立民族学博物館開館40周年記念特別展「太陽の塔からみんぱくへー70年万博収集資料」（3月8日～5月29日）、「工芸継承—東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」（9月13日～11月27日）、及び企画展等各種催しに対する協力として広報活動をおこなう。

### 3.博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

#### 1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及
- ② 各地の博物館等を活用する巡回展：

国立民族学博物館収蔵資料からなる巡回展を地方で開催することで、国際的にも価値の高い民族学的資料を有効に活用するとともに、多様性と共通性を知ってもらい、異文化理解について考えてもらうことを目的としている。

巡回展「ビーズ(仮)」別紙3参照

開催館：岡山市立オリエント美術館

開催期間：2018年9月22日(土)～11月25日(日)

#### 2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

- ① 指定管理者制度における博物館運営に関する調査研究
- ② 巡回展のための什器に関する調査
- ③ 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

#### 3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

『島根県立三瓶自然館 展示案内』（日本生命財団より受託。2019年1月完成予定）

### 4.文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

#### 1) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務（松下幸之助記念財団より受託）

第27回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

#### 2) 日本展示学会の事務業務

「日本展示学会」の事務業務を受託し実施する。

「日本展示学会」：展示に関する研究を、技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。

1982年に、国立民族学博物館において設立された。

#### 3) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第142号～第145号の4号の編集を受託し発行する。

2018年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

164号（4月25日発行予定）

- ① 特集 モンゴル仏教と化身ラマ—あるいは生まれ変わりのポリティクス（以下すべて仮題）
  - ・「化身ラマたちの故郷を訪ねて」島村一平（滋賀県立大准教授）
  - ・「モンゴルにおける転生仏（化身ラマ）の歴史」松川節（大谷大学副学長・教授）
  - ・「内モンゴルにおける寺院の生き残り戦略と化身ラマ（活仏）の価値」趙芙蓉（民博外来研究員）
  - ・「双頭のモンゴル仏教」ジャダムバ・ハグワテムチグ（モンゴル国立大学専任講師）
  - ・「グローバルに展開するモンゴル仏教」滝澤克彦（長崎大学准教授）
  - ・コラム 図像と400字程度の原稿で個性的なモンゴルの化身ラマたちを紹介
- ② 40周年記念 みんなく大集合（編集部作成、要校正）
  - ・開催したイベントの報告：収蔵庫見学、梅棹資料室見学、企画展示場見学など
  - ・対談 「文化人類学と霊長類学—人類文化の普遍性をさぐる（仮）」吉田憲司（国立民族学博物館長）×山極壽一（京都大学総長）
- ③ その他
  - ・「キリスト教徒が伝えたシンドバード航海記（仮）」西尾哲夫（民博教授）
  - ・生活必需品から文化と近代化を考える [4]  
「嫁入り道具の変遷から見るトルコの近代化」田村うらら（金沢大学准教授）

165号（7月25日発行予定）

- ① 特集：「岡本太郎と民族学（仮）」  
執筆予定：吉田憲司（民博館長）、川口幸也（立教大学教授） 他を検討中。
- ② 「アメリカ大陸の物づくり アーミッシュキルト（仮）」鈴木七美（民博教授）
- ③ その他
  - ・生活必需品から文化と近代化を考える [5] 他

166号（10月25日発行予定）

- ① 特集：「南アジアの弦楽器（仮）」寺田吉孝（民博教授）
- ② 「有明海周辺のウナギ漁（下）」中尾勘悟（肥前環境民俗（干潟文化）写真研究所）
- ③ その他
  - ・生活必需品から文化と近代化を考える [6]
  - ・東ティモールを歩く（仮） 他

167号（2019年1月25日発行予定）

- ① 特集：「世界遺産 富士山（仮）」
- ② 「北欧の少数言語について（仮）」庄司博史（民博名誉教授）
- ③ その他
  - ・生活必需品から文化と近代化を考える [7] 他

## 2018 年度 講演会等企画内容 (案)

## 1) 国立民族学博物館友の会講演会

開催日時：毎月第 1 土曜日、13：30～15：30（見学会もしくは懇談会等を含む）

会場：国立民族学博物館

通算回数（開催日）：「演題」 / 講師(所属)

- 第 476 回 4 月 7 日（土）[特別展「太陽の塔からみんなくへ」関連]  
「文化遺産としての日本万国博覧会—人類の進歩と調和を再考する」  
鈴木紀（民博准教授）
- 第 477 回 5 月 5 日（土）[第 79 回体験セミナー関連/みんなく名誉教授シリーズ]  
「富士山—水と世界遺産を考える」  
秋道智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長、民博名誉教授）
- 第 478 回 6 月 2 日（土）  
「カフィル・カラ遺跡とゾロアスター教—発掘調査で出土した木彫り板絵  
から読み解く」寺村裕史（民博助教）
- 第 479 回 7 月 7 日（土）[第 92 回民族学研修の旅関連]  
三尾稔（民博教授）
- 第 480 回 8 月 4 日（土）[企画展「アーミッシュの生活と文化（仮）」関連]  
「アーミッシュの信仰と文化—歴史から現代へ」踊共二（武蔵大学教授）
- 第 481 回 9 月 1 日（土）[シリーズ 生物と人との関わり（仮）]  
岸上伸啓（民博教授）
- 第 482 回 10 月 6 日（土）[秋季特別展関連] 調整中
- 第 483 回 11 月 3 日（土）[シリーズ 生物と人との関わり（仮）] 調整中
- 第 484 回 12 月 1 日（土）[企画展関連]  
谷正人（神戸大学准教授）
- 第 485 回 2019 年 1 月 5 日（土）[みんなく名誉教授シリーズ] 調整中
- 第 486 回 2019 年 2 月 2 日（土）  
八木百合子（民博助教）
- 第 487 回 2019 年 3 月 2 日（土）  
「韓国のキリスト教（仮）」 太田心平（民博准教授）

## 【東京他】

開催日時：不定期、13：30～15：30（懇談会等を含む）

通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

- 第 122 回 4 月 14 日（土）[特別展「太陽の塔からみんなくへ」関連]  
のこされたミッション—EEM（万博資料収集団）からみんなくへ  
野林厚志（民博教授）〈会場：モンベル御徒町店〉
- 第 123 回 6 月 23 日（土）[第 92 回民族学研修の旅関連]  
三尾稔（民博教授）〈会場：モンベル渋谷店〉

第124回 9月頃 ※未定

第125回 1月頃 ※未定

## 2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

大阪：土曜日 15:20～16:10、国立民族学博物館展示場で開催

通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師(所属)

第71回（4月7日）[特別展「太陽の塔からみんぱくへ」関連]

鈴木紀（民博准教授）

第72回（8月4日）[企画展「アーミッシュの生活と文化（仮）関連」]

鈴木七美（民博教授）

第73回（10月6日）[秋季特別展関連] 調整中

## 3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

通算回数（開催日）： 講師(所属) / 訪問先 / 「演題」 / 内容

第78回（5月26日（土））：1日間

「世界の製藍、日本の藍染め——気候と風土に育まれた色、藍を知る」

同行講師：井関和代（大阪芸術大学名誉教授） 訪問先：滋賀県野洲市

藍色の成分をもつ藍植物は世界各地に100種以上あることが知られている。藍を染料として利用するための製藍（せいらん）・染色の技術も世界の広範な地域で見出され、地域・民族によってその手法が異なる。例えば、日本の藍染料「菘（すくも）」が国字であるように、その技術には地域的な特徴が顕著にあらわれる。本セミナーでは、各地の製藍・染色技術とともに、日本固有の藍染めの技術を体験的に知ること、藍の面白さ、「染める」という人びとの営みの奥深さについて理解を深める。また、文化財修復の技術にも注目する。

第79回（7、8月予定：2日間）

「富士山—水と巡礼地（仮）」

同行講師：秋道智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長、民博名誉教授）

訪問先：山梨県

富士山は古くより噴火の猛威をふるう火山として人びとに畏敬の念をもち崇められ、山岳信仰の対象とされてきた。富士信仰は、長谷川角行によって始まり、その後の弟子たちによって受け継がれ、「富士講」として、多くの人びとに信仰された。富士山世界遺産センター見学、山梨県側にある「構成資産」を中心に訪問し、富士巡礼、巡礼を支える御師の文化にふれたい。

第80回（1月頃）

「未定」 訪問先：歴博等、関東の研究機関

民博と同様に、大学共同利用機関である研究施設を訪問し、研究分野とその施設の役割を再確認する。関東地域の研究機関を候補としてあげる。

第81回（3月予定：3～4日間）

「五島列島を訪ねる（仮）」 同行講師：未定 訪問先：長崎県  
長崎県の西端に位置する五島列島は有人・無人あわせて 140 の島々からなっている。その立地から、古代には遣唐使の寄港地、中世には倭寇の活動拠点となり、18 世紀末には外海地方から多くの潜伏キリシタンが移住した。現在も 50 以上の教会建築とともに信仰が保たれるばかりでなく、「カクレキリシタン」とよばれる人びとは、キリスト教とは異なる独自の民間信仰を育むにいたった。本セミナーでは、潜伏キリシタンの歴史、カクレキリシタンの宗教観をさぐるとともに、海上の要衝となった五島列島の立地・歴史背景について理解を深める。

#### 4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

第 91 回（8 月 8 日 ～ 15 日：8 日間）

「モンゴル、遊牧の民に出会う

— 揺籃の地オルホン川上流域と草原都市ウランバートルを訪ねる」

同行講師：小長谷有紀（人間文化研究機構理事・民博併任教授）

イチンホルローギーン・ルハグワスレン（モンゴル科学技術大学教授）

訪問地：モンゴル

2017 年度に実施した第 89 回民族学研修の旅に募集が集中したことを踏まえ、今年度もほぼ同行の旅行を実施する。モンゴル高原では古来、さまざまな民族が主役の座を交代しながら遊牧文明が維持されてきた。そこで育まれた「移動性」と「柔軟な精神」を受け継ぐのがモンゴル遊牧民である。国民の約半数が集う首都ウランバートル、世界無形文化遺産にも登録されているオルホン川上流域エリアを訪ね、都市と草原、過去と現在を比較しながら、遊牧民の暮らしについて理解を深める。今年度は、中央・北アジア展示場にゲルと提供したエンフバト家も訪ねる。

第 92 回（平成 30 年 10 月中旬予定）

「対立と融合の北西インドをゆくーインド叙事詩と女神信仰の祭礼をめぐる（仮）」

同行講師：三尾稔（民博教授）

訪問先：インド

民博が映像取材をおこなった女神祭礼の見学を糸口に、北西インドの歴史・文化について理解を深める。祭がおこなわれる雨季明けはちょうど夏作の収穫と冬作の播種の間にあたる。この時期、人びとは圧倒的な力をもつ女神にあやかって祭礼をおこなう。近隣の別の集団間でも、異なる文脈をもって祭礼（ラーマヤナ歌劇）がおこなわれる。祭をとおして民族間の信仰、文化、価値観の違いと共通性を実感し「多様性のインド」を実感したい。

#### 5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

第 203 回：7 月 12 日（木）「万国博覧会と博物館（仮）」

- ・ 話題提供者：中牧弘允（国立民族学博物館名誉教授）
- ・ コメンテーター：吉田憲司（国立民族学博物館長）

## 6) 外部広報事業

うめだホール 生活楽校「世界を巡る（仮）」講演会シリーズ 企画概要（案）

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。

2018 年度は、国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、昨年 11 月に刊行された新版『国立民族学博物館 展示案内』の広報と連動させ、地域文化を横断する、衣・食・住・生業の通文化テーマで読みとく講演会をシリーズで開催する。

□内容： 登壇者（敬称略／順不同）：

- 1) 「衣装から読み取る「力」の存在（仮）」關雄二（民博教授）
- 2) 「線から生まれる造形物（仮）」上羽陽子（民博准教授）
- 3) 「主食一人を生かすもの（仮）」菅瀬晶子（民博准教授）
- 4) 「運べる家、動く家（仮）」西尾哲夫（民博教授）
- 5) 「酒—自然の摂理が作る人類文化（仮）」野林厚志（民博教授）

□開催期間：5 月 ～ 2019 年 3 月 全 5 回程度で関連催しを実施。

□開催場所：うめだ阪急ホール（阪急百貨店 9 階）

□主催：千里文化財団

□特別協力：国立民族学博物館 阪急百貨店 予定

国立民族学博物館巡回展  
「ビーズ 一つなく、かざる、みせる（仮）」  
企画概要

趣 旨：国立民族学博物館（みんぱく）は、大阪吹田市の万博記念公園内に創設され、文化人類学・民族学の研究活動と博物館活動を一体的におこない、40万点にせまる標本資料などを収集、整理、保存し、研究に取り組んでいる。巡回展を地方で開催することで国際的にも価値の高い民族学資料を有効に活用するとともに、本展覧会を通して観覧者に、異文化理解について考えてもらうことを目的としている。

展示概要：国立民族学博物館が所蔵する世界各地のビーズ関連資料を中心に活用して、世界における多様な素材で作られたビーズや社会的役割を持つビーズを展示する。そして、これらをとおして、私たち人類ホモ・サピエンスの文化の特質を理解する機会にする。つまり今回の展示は、特定の地域の文化に焦点を当てたものではなく、地球上に普遍的にみられるビーズというものをとおして、「人類とは何か」という人類学の基本課題を正面から追求するものである。なお、本展示では、「様々な個々の素材をつなげたもの」として、ビーズを定義する。このため、個々のものはビーズ玉と呼ぶ。また、今回の展示では、2017年に開催された特別展示「ビーズ」のなかで中心となるビーズに焦点を当て、さらに、岡山市立オリエント美術館が所有する古代のガラスビーズ等も合わせて展示することで新たな展示の世界を紹介する。

会 期：2018年9月22日（土）～11月25日（日）

会 場：岡山市立オリエント美術館 岡山市北区天神町9-31

主 催：岡山市立オリエント美術館 国立民族学博物館 千里文化財団 RSK 山陽放送

企 画：国立民族学博物館、国立新美術館、日本文化人類学会

開館時間：午前9時～午後5時（入館午後4時30分まで）

関連講演会は検討中

2018年度収支予算書〈正味財産増減計算書〉(2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位：円)

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	3,000	6,000	△ 3,000
基本財産受取利息	3,000	6,000	△ 3,000
受取会費	41,300,000	43,050,000	△ 1,750,000
維持会員	13,500,000	14,500,000	△ 1,000,000
正会員	23,000,000	25,000,000	△ 2,000,000
家族会員	200,000	300,000	△ 100,000
キャンパスメンバーズ	2,500,000	2,500,000	0
ミュージアム会員	1,500,000	0	1,500,000
フリーパス会員	600,000	750,000	△ 150,000
事業収益	247,696,000	253,943,000	△ 6,247,000
事業収益	56,046,000	54,843,000	1,203,000
受託事業収益	190,650,000	198,500,000	△ 7,850,000
広告収益	1,000,000	600,000	400,000
受取補助金等	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000
受取助成金	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	290,000,000	300,000,000	△ 10,000,000
(2)経常費用			
事業費	259,440,000	268,910,000	△ 9,470,000
給料手当	123,000,000	121,800,000	1,200,000
臨時雇賃金	20,000,000	18,700,000	1,300,000
退職手当	5,000,000	10,000,000	△ 5,000,000
法定福利費	21,800,000	21,800,000	0
福利厚生費	400,000	600,000	△ 200,000
旅費交通費	5,550,000	5,550,000	0
通信運搬費	5,300,000	9,805,000	△ 4,505,000
減価償却費	100,000	45,000	55,000
事務委託料	500,000	1,500,000	△ 1,000,000
印刷製本費	12,000,000	14,600,000	△ 2,600,000
諸謝金	2,200,000	2,200,000	0
会議費	1,000,000	1,650,000	△ 650,000
光熱水費	500,000	500,000	0

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
消耗品費	790,000	810,000	△ 20,000
負担金	13,500,000	12,600,000	900,000
原稿写真委託報酬	6,000,000	8,100,000	△ 2,100,000
支払手数料	700,000	650,000	50,000
賃借料	2,350,000	2,300,000	50,000
修繕費	100,000	100,000	0
著作権等使用料	100,000	100,000	0
教材等制作購入費	36,400,000	34,000,000	2,400,000
教材出版物等棚卸差額	1,900,000	1,250,000	650,000
館内サービス関係費	250,000	250,000	0
<b>管理費</b>	<b>27,300,000</b>	<b>28,910,000</b>	<b>△ 1,610,000</b>
給料手当	14,100,000	14,100,000	0
臨時雇賃金	100,000	200,000	△ 100,000
退職手当	2,000,000	4,700,000	△ 2,700,000
法定福利費	2,200,000	2,200,000	0
福利厚生費	100,000	210,000	△ 110,000
旅費交通費	200,000	200,000	0
通信運搬費	650,000	600,000	50,000
減価償却費	130,000	0	130,000
印刷製本費	150,000	200,000	△ 50,000
諸謝金	3,300,000	2,100,000	1,200,000
会議費	200,000	250,000	△ 50,000
光熱水費	100,000	100,000	0
消耗品費	650,000	650,000	0
負担金	250,000	250,000	0
原稿写真委託報酬	300,000	300,000	0
支払手数料	220,000	350,000	△ 130,000
賃借料	2,400,000	2,400,000	0
修繕費	250,000	100,000	150,000
経常費用計	<b>286,740,000</b>	<b>297,820,000</b>	<b>△ 11,080,000</b>
当期経常増減額	<b>3,260,000</b>	<b>2,180,000</b>	<b>1,080,000</b>
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	<b>3,260,000</b>	<b>2,180,000</b>	<b>1,080,000</b>
一般正味財産期首残高	<b>18,285,796</b>	<b>16,105,796</b>	<b>2,180,000</b>
一般正味財産期末残高	<b>21,545,796</b>	<b>18,285,796</b>	<b>3,260,000</b>
II 正味財産期末残高	<b>21,545,796</b>	<b>18,285,796</b>	<b>3,260,000</b>